



平成 31 年度

混合型ラダー教育 「倫理・思考兼備看護師」の育成 教育研修プログラム

「倫理・思考兼備看護師」とは、倫理観を踏まえ心に寄り添い考えるテクニシャン看護師をいう。

(倫理観：人としてなすべき判断・行動に関する考え方 倫理感：倫理の感覚、感覚的感情(こころ)を使い分け下記に表記する・・・実用日本語表現辞典引用)

ここでいう思考とは「心」が動くそのものを言い、考えや思いを巡らせ行動し結論を導き、その過程に筋道や方法を模索する精神をいう。また、問題対処法において心の過程や操作がその対象の問題解決、手立て、推理、理解、イメージを頭や心で活動し知恵を巡らせることを意味する。

先進医療とリハビリテーションが融合しその機能を果たす役割は、人が地域にもどり人間本来の生活を取り戻し生き生きと生活することへの支援である。その支援の過程において看護師は倫理観を踏まえた倫理感に寄せる看護介入を行わなくてはならない。看護師一人ひとりの言動は倫理感のもと実践される。倫理観を兼備し人間の尊厳を第一に考え、意思決定支援の支えとなる役割がある。心身共に寄り添い倫理感をもって医療・福祉に限局することなく柔軟な姿勢で広範囲に役割発揮をする。「倫理感を備え倫理観のもと思考する看護師」を育成する教育プログラムである。目配り・気配り、先を見る看護は気の利いた看護の実践がつながる力となり、人が持てる「自然治癒力」を引き出す看護を日々反復し実践の中で考える看護に到達することである。

研修日は実務に沿ったリアルタイムで設定する。都度、お知らせ文または所属長へメール発信する。

法的義務研修 医療安全・感染 各年 2 回実施

目標	「倫理・思考兼備看護師」:心に寄り添い「考える」テクニシャン看護師					
	「変化しない・させない」看護は観察力とアセスメント力にある 速やかな対応は在宅復帰への“つながる”を実現する					
実務経験と期待する発達レベル	テーマ別研修	ニーズ別研修		階層別研修		
	新卒看護師 スキルトレーニング 業務に必要な技術を根拠に基づいて知ること、繰り返し実践する	実務経験 1 年目以上～実務経験 3 年未満 臨床ラダー レベル I レベル II	実務経験 3 年以上 レベル III	実務経験 5 年以上 レベル IV	資格認定者：資格を活かした経験者 専門レベル	師長・主任 管理者
月別研修	指導や教育を受けながら倫理感ある看護・介護実践を行う 倫理感を備える	臨床場面において看護・介護実践が自立できる 倫理観と倫理感	優秀な看護・介護実践に加えて、組織的役割遂行の実践ができる 倫理観と倫理感	臨床場面において卓越した看護・介護実践を行い組織的に広範囲な役割実践ができる 倫理観と倫理感	専門性を高く掲げその知識・技術を還元し創造的な看護実践ができる 倫理観と倫理感	組織行動のプロセスを理解し事業計画の立案と実施ができる 倫理観と倫理感
到達目標	自己抑制・責任を学び人の心に寄り添い・触れ合うことの意味を理解する 判断した行動には責任を伴うことが分かる時期	組織規範に基づいた行動がとれ培った知識が心に寄り添う実践の確認が取れる時期＝テクニシャンとして行動する		心に寄り添えるテクニシャンとして教育・指導をする		
4月 自分の業務を認識する OJT(部署ごと)	病院組織や看護部のオリエンテーション、研修を通して理解する	外部講師 コンネクス研修時間内	外部講師 コンネクス研修時間内	外部講師 コンネクス研修時間内		
5月 実践時期 指導を受けながら実践すること、繰り返す 新入職者	外部講師 コンネクス研修時間内 回復期リハビリテーション病院 介護老人保健施設 障害者・児支援施設の違いについて理解する	グループワーク研修を中心とする。課題の趣旨を理解し、自分の考えはもとより、人の考え方に傾聴・共感できる。また、その考え方をまとめ課題の答えを導きだすことができる				病院・事業所 新人教育計画実施
6月 サポートを受けながら自立する	集合研修 知識の視野を広げ 共同を学ぶ 業務上必要な技術を優先順位から研修を実施↓ 倫理観と道徳観	外部研修 FIM 機能的自立度評価 分類 (日程調整あり)	外部研修 FIM 機能的自立度評価 分類 (日程調整あり)	外部研修 ICF 分類 国際生活機能分類 人間の生活機能と障害を判断する分類の方法	1年間の自己研修計画を申告する	
7月 見守りのもと一人立ち見込み		講義と演習 トランスファー	外部研修 資格取得研修検討 ケアマネジャー	外部研修 資格取得研修検討 ケアマネジャー	自己研鑽 外部研修を主体とした研修を設定する 外部研修後は報告をする(復命書)	

 自立実践中 8月	看護倫理 コミュニケーション（傾聴含む）能力自分と相手	講義 家族看護 看取り看護	講義 家族看護 看取り看護		自己研鑽 外部研修を主体とした研修を設定する	方法：研修会開催 講師として還元する
9月	フィジカルアセスメント メンバーシップ	緊急対応 BLS （日程調整あり）	緊急対応 BLS （日程調整あり）	緊急対応 BLS （日程調整あり）	外部研修は報告をする（復命書） 方法は講師として講義形式で還元する 研修計画書の提出	内・外部研修 管理者研修 リーダー マネジメント 1年間の自己研修計画を申告する
10月	家族看護 看取り看護 OJT	講義とGW 高齢者のフィジカルアセスメント	講義とGW 高齢者のフィジカルアセスメント			
11月	疾患と看護 脳疾患看護 精神疾患看護 認知症看護 高次脳機能障害 整形外科疾患 運動機能訓練 老人・障害者 OJT・OFFJT 感染：スタンダード プリコーション OJT	研修予定	研修予定	研修予定		
12月	知識・技術を取得し実践する 看護技術	取り組んだ 研究 事例 まとめ	取り組んだ 研究 事例 まとめ	取り組んだ 研究 事例 まとめ	取り組んだ 研究 事例 まとめ	平成31年度 新入職員受け入れ準備 研究まとめ 成果発表
1月	吸引・吸痰講義と演習 酸素療法について トランスファー					
2月	スキンケア 入浴介助 排泄ケア	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  <p>1年間かけて</p> <h2>自分に取り組んだことを発表する</h2> <p>研究含む ※新卒看護師事例研究発表</p> </div>				
3月	コンチネス 褥瘡処置 ストマケア 口腔ケア（加算） 看取りケア 栄養について 食事介助					
4月	経管栄養（胃ろう・経鼻）と管理 嚥下と摂食（加算） バルーンカテーテル留置 インシュリン投与 静脈穿刺法・筋肉注射 集合研修 緊急対応 BLS 薬剤について 薬理作用と服薬管理（与薬） OJT・OFFJT 記録について POS・SOAP/経時記録 介護記録含む 総合東京病院・新百合ヶ丘病院で研修	病棟部門・事業所部門の新卒教育計画・新人教育計画を実施・評価しながら到達目標を目指し計画を達成する。各指導者は、新人の迎い入れの準備に沿って教育計画を実践する。新卒看護師が自立する7月を目標に必要な知識と技術の習練を行い、実践できるように見守り指導する。			新入職者オリエンテーション計画 全体実施 病棟・各事業所の教育計画の実施と評価	

※内・外部研修の日程は、流動的となる可能性がある。

※研修は業務上優先する技術・知識を優先する

※看護助手研修年間教育計画は別紙

東京リハビリセンター世田谷 看護部教育委員会

平成31年4月1日